

田村明「市民の政府」論勉強会・活動中間報告

青木淳弘(NPO 法人田村明記念・まちづくり研究会正会員)

<研究目的>

飛鳥田市政期横浜市(1963-1978)において、企画調整局長として活躍した田村明は、横浜市退職後に法政大学法学部教授を経て、まちづくりの「伝道師」として日本全国を駆け巡るようになる。そのときの田村の主題は日本のまちづくりは「市民の政府」を目指すべきであるというものであった。本研究会は横浜市以降の田村明のまちづくりへの関与と、田村がもつ「市民像」がどのようなものであったのかについて明らかにすることを目的とする。

<自主研究会メンバー (2019年8月現在) >

田村千尋、関根龍太郎、田口俊夫、奥津憲聖、青木淳弘、以上5名。なお、適宜、希望者が研究会に参加することは歓迎するが、決められた資料等の読み込みを前提とする。

<研究活動報告>

第1回勉強会 2019年3月29日 於 桜木町市民活動センター5階

- ・ 田村明の『「市民の政府」論』についての意見交換を行った。
- ・ 今後の活動として「逗子市まちづくり懇話会」資料を参加者全員で読み込んでいき、各回の研究会で見解を共有して議論するという方向性を決める。
- ・ 逗子市の事例の後は、横浜市国鉄新貨物線反対運動についても検証する。
- ・ 研究の成果については学会報告や査読論文を通して公表することを目標とする。
- ・ その他の構想として、「市民の政府」に関連した韓国での調査・研究活動との連携。

第2回勉強会 2019年4月25日 於 桜木町市民活動センター5階

- ・ 懇話会資料の内容の検討
- ・ ここまでの内容で田村明が「市民がどのようにまちづくりに関わるべきか」ということについての明言はしていない。ただし司会進行はかなり積極的に行っていた。
- ・ その他、先行研究との比較や「総合計画」を調べる必要性など、各個人の関心が少しずつ出されるようになってきた。
- ・ 次の勉強会も同じように懇話会資料を読み進めることを決めた。

第3回勉強会 2019年5月16日 於 桜木町市民活動センター5階

- ・ 懇話会資料の内容の検討
- ・ 田村明は住民と直接の関与はあまり持っておらず、田村明のいう「市民像」は結局のと

ころわかりそうにない、ということがわかった。

- ・ 田村明のいう「総合性」の範囲の問題や、都市プランナーというものの「専門性」をめぐる議論がこれまでつき詰めて考えられてこなかったと思われた。
- ・ 今後の方針として、「逗子に何が残り、何が残っていないのか」について仮説をつくりながら検証していくことを決めた。
- ・ 6月3日に逗子の現地見学を行うことと、それまでに懇話会資料をすべて読み終えておくことを決めた。

逗子市現地見学 2019年6月3日

- ・ 車にて逗子市内各エリアの現地見学を行った。
- ・ 造成された住宅団地が点在しており、地区別の階層分化が、ある程度可視化されているように思われた。
- ・ 池子地区については米軍施設があるものの、良くも悪くも、乱開発はされていない。

第4回勉強会 2019年6月18日 於 桜木町市民活動センター5階

- ・ 逗子市の現地見学と懇話会資料の総括を元に、今後の展開を考えた。
- ・ 役割分担して先行研究や事例の整理を行うことを決めた。
- ・ 重要な参考資料として、長島孝一『風土と市民とまちづくり』を読むことを決めた。

第5回勉強会 2019年7月11日 於 桜木町市民活動センター5階

- ・ 各役割分担のメモを共有して議論した。
 - 関根：まちづくり懇話会当時の社会背景
 - 奥津：まちづくり懇話会での市民に関わる田村発言
 - 田口：まちづくり懇話会での自治体運営に関わる田村発言
 - 青木：逗子と市民に関わる先行研究
- ・ 逗子市の市民運動と政治は結びついたが、市民運動と機構としての行政は必ずしも結びつかなかった。
- ・ 田村明が見てきた「市民」とは、運動体における市民ではなく、むしろ行政体の方が市民の声をいかにして吸収するのかを重視している、という推測ができた。
- ・ 事例に対する個人の興味と関心を集合的に語るフレームワークの作成を次回までの課題とした。
- ・ 長島孝一氏へのインタビューの内諾を得ることも課題とした。

第6回勉強会 2019年7月29日 於 桜木町市民活動センター5階

- ・ 本研究会のフレームワークを議論の上で整理した（後述）
- ・ いくつかの論点を出したうえで、8月以降の展開について相談した。

<研究会のフレームワークと今後の方針>

これまでの勉強会の内容を踏まえると、

本研究会のフレームワークは、<逗子市・市民運動派市政（富野・澤）期における「まちづくり」と「行政組織」の変遷研究>と言える。

- ・ 懇話会記録を読めば田村明のいう「市民」像がわかるという期待を込めたが、そうでもなかった。しかし逗子というフィールドは、この「市民」像を考えるうえで極めて興味深い場所であることもわかった。
- ・ 逗子における田村明の役割（なぜ田村明が呼ばれたのか、何を期待されていたのか）がどのようなものなのか等について今後も検討したい。
- ・ 市民運動派が市長になっている中で、まちづくりや行政組織はより「市民的」になっているといえるのだろうか？ということも検討課題である。

- ・ 9月2日に長島孝一氏にインタビューの予定。
- ・ その前の8月20日に次回の勉強会を開催するが、それまでに長島さんに対する質問事項をまとめておく。
- ・ インタビューは「懇話会記録」に即した内容とする。
- ・ 可能であれば年内に査読論文にまとめる。